

管 內 情 勢

豊川市の概況

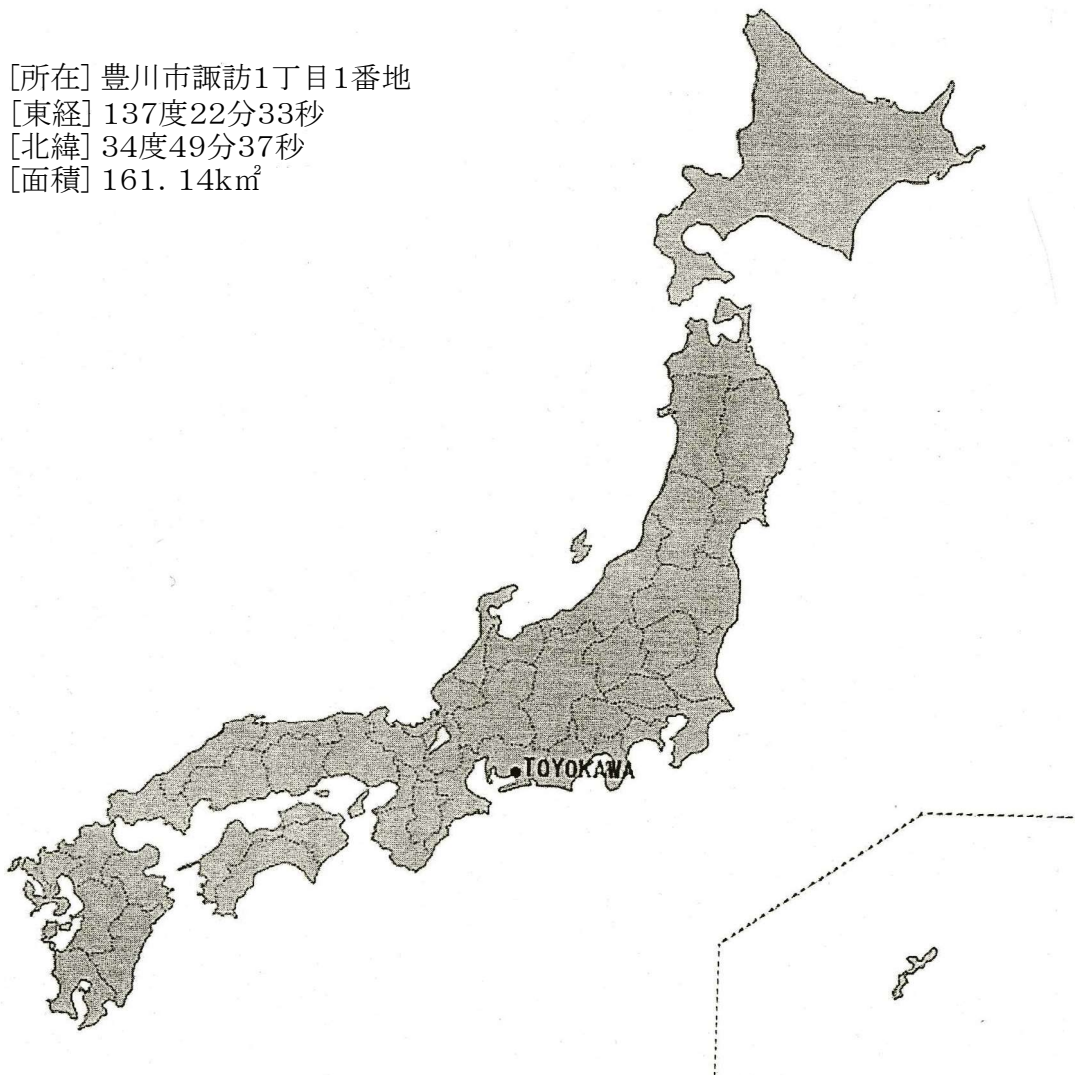
1. 豊川市の概況

豊川市は、愛知県の南東部、東三河地方に位置する人口約18万人の都市です。地域は、豊橋市、岡崎市、蒲郡市、新城市と接し、北部には三河山地南端の山ろく、東部には1級河川の豊川（とよがわ）があり、その間は、平たんな洪積台地と沖積平野が広がり、三河湾に面しています。

交通網として幹線道路は、東名高速道路が東西を貫き、国道1号・23号・151号・247号が縦横に走っています。特に東名高速道路は、豊川インターチェンジと音羽蒲郡インターチェンジが、それぞれ国道151号と1号で接続しています。

鉄道は、名鉄本線・豊川線、JR東海道新幹線、JR東海道本線、飯田線が敷設され、道路・鉄道の要衝地域です。

市の位置 [所在] 豊川市諏訪1丁目1番地
(市役所) [東経] 137度22分33秒
[北緯] 34度49分37秒
[面積] 161.14km²



2. 管内の世帯数・人口・面積

令和3年4月1日現在

区分	世帯	人口			面積(km ²)
		総数	男	女	
豊川市	78,932	186,554	93,053	93,501	161.14

人口は住民基本台帳人口

消防管轄区域及び消防機関配置図



消防の沿革

昭和23年	3月 7日	消防組織法（昭和22年12月23日公布、附則昭和23年3月7日施行）によって自治体消防となると同時に消防本部設置、当時消防団現勢4団（豊川、牛久保、国府、八幡）20分団
昭和24年		国府消防団に久保分団設置
昭和25年		豊川市消防団に北金屋、牧野、三谷原分団設置、総計4団24分団1,055人
昭和29年	4月26日	水槽付消防ポンプ自動車購入（積載水量1,500ℓ）、消防本部に配備
	12月 1日	消防本部独立、専任消防長を置く
昭和30年	2月 1日	消防署発足、消防長以下25名
	3月 4日	消防ポンプ自動車を平尾分団に配備
	4月 1日	従来の4団制を豊川市消防団に改組、1分団30名に縮小、同時に牛久保分団1分団増設、総計1団25分団754人
	12日	三上村合併により三上分団加入、26分団784人
	5月 3日	三蔵子分団に手引ガソリンポンプを配備
	7月12日	豊川市危険物安全協会設立
	20日	千両分団に手引ガソリンポンプを配備
	8月 2日	消防本部新庁舎が市田町諏訪新畑47-17に完成、鉄筋コンクリート造一部木造2階建186.45㎡、延べ209.55㎡
昭和31年	2月 6日	三谷原分団に手引ガソリンポンプを配備
	3月 1日	豊川第3分団に手引ガソリンポンプを配備
	3日	麻生田分団に手引ガソリンポンプを配備
	31日	豊川市防火委員会設立
昭和32年	9月16日	消防ポンプ自動車購入、消防署に配備
昭和33年	4月 1日	1分団1ポンプ制実施
	12月 1日	国府町流霞133に消防署西部出張所開設、職員1名交替制、消防ポンプ自動車1台を配備
昭和34年	4月 1日	消防吏員2名増員、消防長以下27名 御油町合併、御油分団加入、27分団814人 諏訪分団の手引動力ポンプを廃止し、消防署の行う消火活動及び通信事務補助の新任務に就くことになった
	10月 1日	諮問機関として消防合理化研究会設立
昭和35年	3月25日	昭和34年10月から合理化研究会において研究された具体計画が定例市議会において可決、昭和35年4月以降実施となった合理化は、消防団員の減員と委託消防ポンプ自動車の更新の2点で、団員

			については1団27分団814人を、昭和35年度において1団26分団659人とし、昭和36年度において1団26分団524人委託消防ポンプ自動車とは、終戦直後本市が海軍工廠から4台払下げを受け、豊川、牛久保、国府、八幡の分団に運営管理を委託したものであるが、本市の防災上から言って全市を活動範囲としているものであり、すでに老朽車となり更新しなければならなくなったので、関係方面の特別の協力を得て4年計画で更新することになった
	8月	5日	豊川ロータリークラブから救急車が寄贈され救急業務を開始する
昭和36年	11月	1日	消防吏員2名増員、消防長以下29名
	2月		豊川分団消防ポンプ自動車更新
	11月		国府分団消防ポンプ自動車更新
	11月	7日	普通消防ポンプ自動車(2号車)購入、消防署に配備
	11月		防火講演会開催「都市防火と豊川市の防火診断」と題して、東北大学教授工学博士藤田金一郎先生の講演会が日本損害保険協会の後援で開催された
昭和37年	1月		消防吏員1名増員、消防長以下30名
	3月	1日	消防吏員2名増員、消防長以下32名 豊川町武通42に消防署東部連絡所開設(鉄筋スレート造平家建162.68㎡職員1名交替制)
		27日	日本損害保険協会から中型消防ポンプ自動車(A-2)が寄贈され八幡分団に委託した
		31日	古宿分団を廃止、自警組織となる
		9月25日	牛久保分団、消防ポンプ自動車更新、以上合理化研究会による消防団消防ポンプ自動車更新計画完了
昭和38年	10月25日		消防署庁舎会議室を増築(123.9㎡)
	4月	1日	消防吏員2名増員、消防長以下34名
昭和39年	11月	1日	消防用無線開局
	4月	1日	消防吏員8名増員、消防長以下42名
	11月	2日	西部出張所の1人交替制から4人、消防車1台の常駐制となる
	12月	7日	消防合理化委員会を設置、その基本計画は昭和44年度を目標に消防本部・署の充実強化、東部連絡所の昇格、牛久保地区への連絡所開設、また、消防団の少数精鋭化、待遇の改善、団員の地位向上を図ることになった
昭和40年	1月20日		御油分団を廃止、自警組織となる
	3月31日		北金屋分団を廃止、自警組織となる
	4月	1日	消防吏員3名増員、消防長以下45名
		30日	白鳥分団を廃止、自警組織となる。これにともない1団22分団444人

	6月 1日	毎月19日を「防火デー」と制定
	8月28日	救急車購入
昭和41年	1月 6日	豊川市消防出初式会場において、豊川ロータリークラブから赤バイ (ホンダドリーム)が寄贈された
	3 1日	国府町上坊入45-1に西部出張所新庁舎完成(鉄筋コンクリート 造平家建140.94㎡)
	3月	桜町、久保、三谷原分団廃止、自警組織となる
	4月 1日	消防吏員2名増員、消防長以下47名
	9月10日	消防ポンプ自動車購入、西部出張所配備
	11月10日	指令車購入(ニッサンジープ)
昭和42年	2月 1日	消防吏員4名増員、消防長以下51名
	3月 1日	消防吏員6名増員、消防長以下57名
	3 1日	為当分団を廃止、自警組織となる
	4月 1日	東部連絡所を出張所に昇格、消防ポンプ自動車1台、職員4人配置 牛久保町大手56に南部連絡所開設、職員1人交替制
	5月	三上分団に小型動力ポンプ付積載車を配備
	9月 1日	少年消防クラブ結成
	10月30日	水槽付消防ポンプ自動車購入(水I-A型、積載水量2,000ℓ)
昭和43年	3月16日	連絡車(スズライト)購入
	3月	豊川第1、豊川第2、牧野、中条、市田、八幡分団を廃止、自警組 織となる。12分団244名
	4月 1日	予防係専従制開始。消防吏員4名増員、消防長以下61名
	7月24日	千両分団に小型動力ポンプ付積載車を配備
	3 0日	豊川市自衛消防隊連絡協議会発足(57事業所)
	7月	消防署、署員待機室を増築
	1 2月	東部出張所署員仮眠室、救急車車庫新築
昭和44年	1月 1日	消防吏員6名増員、消防長以下67名
	2 7日	日本道路公団から東名高速道路上における救急業務を処理するた めの救急車1台が貸与され、東部出張所に配備
	2月 1日	東部出張所に救急要員6人配置し、東名高速道路の救急業務を開始 する
	3月	下長山分団を廃止、自警組織となる 11分団222名(副団長3 人制を1人制に改正)
	4月17日	雑草刈り取り用トラック(ニッサンキャブオール)購入
	11月16日	屈折はしご付消防ポンプ自動車(15m級ポリュートA-2) 購入、消防署に配備
		水槽付消防ポンプ自動車(A-2、積載水量1,500ℓ)購入、 東部出張所に配備

昭和45年	3月26日	麻生田分団廃止、自警組織となる 消防団10分団202人
	4月7日	連絡車の寄贈を受ける
	5月1日	平尾分団に小型動力ポンプ付積載車を配備
昭和46年	20日	東名高速道路、その他大災害時における患者搬送用として、大黒商事株式会社社長近藤保美氏より大型救急車が寄贈され、消防署に配備
	11月27日	オートバイの寄贈
	4月1日	消防吏員3名増員、消防長以下70名となる
昭和47年	11月8日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車 ^{（注）} が寄贈された
	4月1日	消防吏員2名増員、消防長以下72名
	8月26日	救急車（3B型）購入 当古分団に小型動力ポンプ付積載車を配備
昭和48年	12月19日	中部ガス株式会社から予防広報車（スズキフロンテ）が寄贈された
	10月8日	消防団組織の合理的な維持、運営を図るためその実態を検討し、組織及び運営等の改善に関する基本方針について審議するため、消防審議会が設置された 答申に基づいて昭和49年度から消防副団長2人制となり、総員203人団員全員に甲種衣が貸与された
	25日	三蔵子、下郷分団の小型動力ポンプ付積載車を更新
	12月8日	豊川ライオンズクラブから大型水槽車（積載水量6,000 ^{リットル} ）が寄贈され、消防署に配備
昭和49年	2月15日	豊川市危険物安全協会から指揮車（ニッサンセドリック）が寄贈された
	4月1日	消防吏員1名増員、消防長以下73名
	5月22日	豊川市自警団連絡協議会発足（18自警団）
	10月31日	救急車（3B型）購入、東部出張所に配備
昭和50年	12月4日	豊川分団、消防ポンプ自動車（BS-I型、A-2）更新
昭和52年	1月18日	消防署、消防ポンプ自動車（2号車、3段タービンA-2）更新
	5月10日	消防庁舎建設のため、仮庁舎として市内西桜木町鈴木自動車(株)鈴豊寮の一部を借用し移転する
	10月7日	当古、三蔵子分団の小型動力ポンプ更新
	15日	ロック工業(株)から連絡車（ニッサンバイオレットバン）が寄贈された
昭和53年	2月9日	日本損害保険協会から救急車（3B型）が寄贈され、西部出張所に配備
	18日	国府分団、消防ポンプ自動車（BS-I型、A-2）更新
	3月10日	消防新庁舎完工式を挙る、仮庁舎より新庁舎（鉄筋コンクリート造3階建延面積1,633.22 ^{m²} ）に移転し業務を開始
	4月1日	消防吏員5名増員、消防長以下78名
	5月26日	鈴木自動車工業(株)から原動機付自転車（スズキバーディー50）

		2台が寄贈された
	7月 1日	消防吏員1名増員、消防長以下79名
	8月25日	三上分団、小型動力ポンプ付積載車更新
	9月29日	豊川ライオンズクラブから広報災害対策車（トヨタハイエース）寄贈された
	10月 1日	消防本部に管理課を設置
昭和54年	4月 1日	消防吏員10名増員、消防長以下89名
	10月16日	日本消防協会から広報車（ニッサンキャラバン）が寄贈された
	11月27日	千両分団、小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
	12月12日	牛久保分団、消防ポンプ自動車（BS-I型、A-2）更新
昭和55年	1月27日	南部出張所（仮）配備用水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型）購入
	3月21日	行明町大井後21に下郷分団詰所新築（鉄骨カラートタン折板葺2階建延面積49.13㎡）
	4月 1日	南部連絡所を出張所に昇格、牛久保町城下12-1に新築（鉄筋コンクリート造2階建延面積198.46㎡）移転、業務開始 消防吏員2名増員、消防長以下91名 婦人・少年防火委員会発足 婦人防火クラブ結成
	5月23日	消防本部貨物自動車（ニッサンキャブオール）更新
	9月29日	平尾分団、小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
	10月15日	当古町東本郷83番地に当古分団詰所新築（鉄骨着色亜鉛鉄板葺平家建53.46㎡）
	11月12日	小型動力ポンプ付水槽車（積載水量10,000ℓ、B-3）を購入、消防署に配備
	12月 2日	第34回愛知県消防大会が豊川市文化会館において開催された
	18日	指揮車（ニッサンセドリック）更新
昭和56年	2月16日	消防署救急車（3B型）更新 水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）を購入、西部出張所に配備
	3月20日	軽四輪車（スズキフロンテ、スズキキャリーバン、スズキアルト2台）4台購入
	4月 1日	消防本部、署の機構改革に伴い本部に総務課、予防課を置く 消防吏員9名増員、消防長以下100名
	10日	愛知県消防長会が豊川市勤労福祉会館で開催された
	5月 1日	幼年消防クラブ結成
	9月30日	西部出張所増築（軽量鉄骨ブレース造2階建延97.20㎡）
	10月 1日	宝飯郡音羽町消防事務受託業務開始
	31日	三上町天神前14の3に三上分団詰所新築（鉄骨着色亜鉛鉄板葺平

		家建53.46㎡)
	11月 9日	小型動力ポンプ付水槽車(積載水量5,000ℓ、B-3)を購入、西部出張所に配備
		27日 諏訪分団、消防ポンプ自動車(BD-1型、A-2)更新
	12月 7日	消防署、水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量2,000ℓ)更新
		東部出張所、水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量1,500ℓ)更新
昭和57年	2月23日	日本損害保険協会から救急車(2B型)が寄贈され、東部出張所に配備
	3月15日	豊川町礼通19番地に東部出張所を新築移転(鉄筋コンクリート造2階建延553.85㎡)業務開始
		23日 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量1,600ℓ)が寄贈され、東部出張所に配備
	4月 1日	宝飯郡一宮町消防事務受託業務開始 東・西部出張所を東・西分署に昇格 消防吏員13名増員、消防長以下113名
	8月26日	日本消防協会から指令広報車(三菱ギャランΣバン)が寄贈された
	9月 6日	当古分団、小型動力ポンプ付積載車(B-3)更新
	10月 1日	宝飯郡小坂井町、御津町消防事務受託業務開始
	11月 9日	愛知県共済生活協同組合から消防広報車(トヨタカーリーナ)が寄贈された
	12月11日	小型動力ポンプ付水槽車(積載水量10,000ℓ、B-3)購入、東分署に配備
昭和58年	1月12日	救助工作車購入、消防署に配備
	4月 1日	消防吏員12名増員、消防長以下125名 大橋、上宿が自警団連絡協議会に加入(20自警団)
	7月26日	第28回愛知県消防操法大会が開催された
	10月21日	三蔵子・下郷分団、小型動力ポンプ付積載車更新
	12月13日	II型化学消防ポンプ自動車(A-2、積載水量1,300ℓ、薬液500ℓ)購入、消防署に配備
		御津出張所(仮)配置用水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量1,500ℓ)購入
		20日 豊川町武通42番地に豊川分団詰所(鉄骨平家建73.17㎡)を新築
昭和59年	4月 1日	御津出張所を宝飯郡御津町大字沓野字村崎89に新築(鉄筋コンクリート造2階建延250.34㎡)業務開始(消防吏員10名、水

		槽付消防ポンプ自動車1台)
		消防吏員4名増員、消防長以下129名
	12月19日	小坂井出張所(仮)配置用水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量1,500ℓ)購入
昭和60年	3月26日	新鋭はしご付消防ポンプ自動車(30m級、A-2)購入、消防署に配備
	4月1日	御油町行力19番地に西分署を新築移転(鉄筋コンクリート造2階建延550.45㎡)業務開始 宝飯郡小坂井町大字小坂井字大堀2-1に小坂井出張所を新築(鉄筋コンクリート造2階建延251.73㎡)業務開始(消防吏員10名、水槽付消防ポンプ自動車1台)
		消防吏員12名増員、消防長以下141名
	5月25日	消防署発足30周年記念式を市役所第1会議室で開催する
	6月12日	豊川市危険物安全協会創立30周年記念として、同協会より防火広報車(トヨタタウンエース)が寄贈された
	8月27日	財団法人日本消防協会から救急車(2B型)が寄贈され、西分署に配備
	30日	消防署30周年を記念し、森田ポンプ(株)名古屋営業所から消防ポンプ自動車(A-2)が寄贈され、消防署に配備
	11月8日	第4回愛知県防火推進大会が豊川市文化会館で開催された
昭和61年	3月10日	国府町上坊入45-1に国府分団詰所(鉄骨平家建73.17㎡)を新築
	25日	指揮車(トヨタクラウン)更新、消防本部に配備
	4月1日	宝飯郡一宮町大字東上字松本90-1に一宮出張所を新築(鉄筋コンクリート造2階建延251.73㎡)業務開始(消防吏員10名、水槽付消防ポンプ自動車1台)
		消防吏員3名増員、消防長以下144名
	10月25日	第35回東三河地区消防大会が豊川市文化会館で開催された
	11月5日	宝飯郡音羽町大字長沢、音羽蒲郡インターチェンジ内において、愛知県下高速道路消防連絡協議会、豊川市消防本部の主催で、関係機関の協力のもと、高速道路における総合消防訓練を実施した
	21日	東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジ及び県道長沢蒲郡線音羽蒲郡有料道路開通
	27日	II型化学消防ポンプ自動車(A-2、積載水量1,300ℓ、薬液500ℓ)を購入、西分署に配備
	12月17日	平尾町中貝津1に平尾分団詰所(鉄骨造平家建60.01㎡)を新築
昭和62年	4月1日	中条分団を設置し、1団11分団総員223人となる

		(19自警団となる)
		消防吏員2名増員、消防長以下146名
	8月28日	中条町宮坪21-1に中条分団詰所(鉄骨2階建53.05㎡)を新築。同時に小型動力ポンプ付積載車(B-3)配備
	9月1日	愛知県総合防災訓練が、愛知県と豊川市の主催により、陸上自衛隊豊川駐屯地訓練場を主会場として市内各地において開催された
	24日	連絡車(トヨタタウンエース)更新
昭和63年	3月15日	愛知県共済生活協同組合より救急車(2B型)が寄贈され消防署に配備
	4月1日	消防吏員5名増員(内2名清算事業団研修生)消防長以下149名主任制度採用
	8月23日	財団法人日本消防協会から指令広報車(三菱ランサーバン)が寄贈された
	10月13日	救急救助用資機材を購入、救助工作車に配備
	25日	豊川分団、消防ポンプ自動車(CD-I型)更新
	11月10日	千両町糸宅80-4に千両分団詰所(鉄骨造平家建60.00㎡)を新築
	25日	災害対策車(ライトエース)広報車(ライトエース)更新
平成元年	1月31日	査察車(スズキエブリー)更新、東分署及び西分署に配備 査察指導車(スズキエブリー)更新、予防課に配備
	2月28日	査察広報車(トヨタプリンター)更新、予防課に配備
	3月16日	愛知県共済生活協同組合より救急車(2B型)が寄贈され東分署に配備
	4月1日	谷川、上野、向河原、二葉が自警団連絡協議会に加入(23自警団) 消防吏員2名増員、消防長以下149名
	10月17日	国府分団、消防ポンプ自動車(CD-I型)更新
	30日	消防広報車(トヨタコロナ)更新、総務課に配備
	11月25日	屈折はしご付消防ポンプ自動車(20m級、A-2)更新、東分署に配備
平成2年	2月28日	三蔵子町宮前32に三蔵子分団詰所(鉄骨造2階建53.46㎡)を新築 救急車(2B型)更新、西分署に配備
	5月14日	査察車(スズキエブリー)を4台購入、南部出張所始め4出張所に配備
	21日	水防用トラック(いすゞエルフ)更新、総務課に配備
	8月3日	三上分団に小型動力ポンプ付積載車(B-3)更新
	12月20日	諏訪3丁目242-1に諏訪分団詰所(鉄骨平家建76.95㎡)を新築

平成 3 年	3 月	4 日	東分署車庫部分を増築（63.14㎡） 水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量1,500ℓ）更新、南部出張所に配備	
		22日	通信指令機器を、消防緊急情報システムⅡ型に更新	
		25日	消防超短波無線電話装置（救急波基地局）を設置	
		27日	愛知県共済生活協同組合から消防広報車（トヨタカーナ）が寄贈された	
		30日	消防情報緊急システムⅡ型の導入に伴い、手狭となった通信指令室の改造をするとともに北庁舎（鉄筋コンクリート造3階建55.48㎡）を増築、訓練塔も新築移転した	
		4 月	1 日	中部が自警団連絡協議会に加入（24自警団） 消防吏員3名採用、消防長以下148名
			5 月 1 4 日	査察車（スズキエブリー）を購入、消防署に配備
			7 月 3 0 日	千両分団に小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
			1 1 月 2 9 日	牛久保分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）更新
			1 2 月 1 6 日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量1,500ℓ）に更新、西分署に配備 消防超短波無線電話装置（全国波…基地局）を設置
		平成 4 年	3 月	1 7 日
2 4 日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量2,000ℓ）更新、消防署に配備 水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量1,500ℓ）更新、一宮出張所に配備			
	2 5 日		牛久保町大手56-1に牛久保分団詰所（鉄骨造平家建76.95㎡）を新築	
4 月	1 日		消防吏員4名採用、消防長以下151名	
	5 月 2 5 日		防火広報車（ニッサンホームー）更新、予防課に配備	
	8 月 2 6 日		平尾分団に小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新	
	1 2 月 1 1 日		Ⅱ型化学消防ポンプ自動車（積載水量1,300ℓ、薬液500ℓ）更新、消防署に配備	
平成 5 年	3 月	2 4 日	小型動力ポンプ付水槽車（積水量10,000ℓ、B-3）更新、西分署に配備	
		2 9 日	消防署の救急車を高規格救急車に更新	
	4 月	1 日	消防吏員8名採用、消防長以下158名	
		6 月 7 日	査察指導車（ホンダストリート）更新、予防課に配備	
		9 月 1 6 日	柑子町五反田131に下郷分団詰所（鉄骨平家建52.24㎡）を新築	
		1 0 月 1 日	救急用心電図伝送装置を豊川市民病院に設置し、運用開始	

	28日	諏訪分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）更新
	11月8日	小型動力ポンプ付水槽車（積水量10,000ℓ、B-3）更新、消防署に配備
平成6年	1月24日	消防本部車（ニッサングロリア）購入、総務課に配備
	4月1日	消防吏員4名採用、消防長以下159名
	5月31日	査察車（スズキキャリバン）更新、東・西分署に配備
	6月20日	連絡車（ニッサンホームी）更新、総務課に配備
	8月26日	当古分団に小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
平成7年	2月28日	救急車（2B型）更新、東分署に配備
	3月7日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）更新、東分署に配備
	4月1日	消防吏員5名採用、消防長以下165名
	6月28日	財団法人日本消防協会から査察広報車（トヨタコロナ）が寄贈された
		広報車（トヨタタウンエース）更新、予防課に配備
	8月3日	第40回愛知県消防操法大会が、豊川市陸上競技場で開催された
	10月4日	三蔵子分団、下郷分団に小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
	12月8日	小型動力ポンプ付水槽車（積載水量10,000ℓ、B-3）更新、東分署に配備
平成8年	1月19日	救助工作車（II型）更新、消防署に配備
	3月14日	御油町河原畑26-1に御油分団詰所（鉄骨造平家建、76.95㎡）を新築
	15日	御油分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）購入
	4月1日	御油分団を設置し、1団12分団総員243人となる
		消防吏員9名採用、消防長以下170名
	24日	救急用心電図伝送装置に関する覚書を医療法人宝美会青山病院と締結
	5月14日	査察車（ダイハツハイゼット）更新、御津・小坂井・一宮・南部出張所に配備
	8月30日	財団法人日本宝くじ協会から消火通報訓練指導車（マツダボンゴ）が寄贈された
	12月27日	愛知県震度情報ネットワークシステムの管理・運営に関する覚書を愛知県と締結
平成9年	2月19日	豊橋信用金庫から救急車（2B型）が寄贈され、西分署に配備
	27日	桜町分団（仮称）用地201㎡を購入
	3月5日	音羽蒲郡有料道路（清田トンネル）無線基地局の設置に伴う協定書を愛知県道路公社と締結
	27日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）更新、

		御津出張所に配備
平成10年	1月30日	携帯電話等緊急通報に係る転送等に伴う協定書を豊橋市と締結
	3月5日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量1,500ℓ）更新、小坂井出張所に配備
	6日	東分署の救急車を高規格救急車に更新
	13日	桜町2丁目8番地21に桜町分団詰所（鉄骨造平家建60.0㎡）を新築、及び小型動力ポンプ付積載車（B-3）を購入
	4月1日	消防団員招集サイレン遠隔吹鳴装置を設置し、運用開始 桜町分団を設置し1団13分団総員263人となる 消防吏員5名採用、消防長以下170名
	6月29日	指令広報車（マツダボンゴ）更新、予防課に配備
	11月19日	災害対策車（トヨタハイエース）更新、消防署に配備 豊川市消防本部公式ホームページ試行運用開始
平成11年	4月1日	消防吏員2名採用、消防長以下172名 豊川市消防本部公式ホームページ本格運用開始
	8月3日	救助活動中に職員1名殉職
	11月30日	Ⅱ型化学消防ポンプ自動車（A-2、積載水量1,300ℓ、薬液500ℓ）更新、西分署に配備
平成12年	3月14日	高規格救急車を更新、消防署に配備 日本損害保険協会から高規格救急車を寄贈され、西分署に配備
	8月7日	はしご付消防自動車（40メートル級）更新、消防署に配備
平成13年	4月1日	消防吏員3名採用、消防長以下171名 消防団の強化対策で方面体制（4方面隊）を導入し、副団長を2名増員し4名とする
	5月17日	査察車（ダイハツハイゼット）更新、消防署に配備
	8月3日	消防本部連絡車（トヨタハイエース）更新、総務課に配備
	7日	中条分団、小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
	9月19日	水難救助用ボート（アルミ製）更新、消防署に配備
平成14年	1月24日	愛知県共済生活協同組合から消防広報車（スズキエスクード）が寄贈された
	2月28日	豊川分団、消防ポンプ自動車（CD-I型）更新
	4月1日	消防吏員4名採用、消防長以下171名
平成15年	3月18日	東分署に消毒室（鉄骨造2階建199.25㎡）を増築
	4月1日	消防吏員4名採用、消防長以下175名
	6月24日	資材運搬車を更新、消防署に配備
	7月28日	査察車（スズキエブリー）更新、東分署・西分署に配備
	12月8日	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型、積載水量1,500ℓ）を更新、南部出張所に配備

平成16年	3月 9日	国府分団の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
	4月 1日	消防吏員2名採用、消防長以下175名
	5月13日	査察車（ダイハツハイゼット）を更新、小坂井出張所・一宮出張所に配備
	7月27日	三上分団の小型動力ポンプ付積載車（B-3）更新
	28日	消防本部車（トヨタカムリ）を更新、総務課に配備
	10月 1日	消防指令センター運用開始
平成17年	1月19日	高規格救急車を更新、消防署に配備
	3月 8日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量2,000ℓ）を更新、消防署に配備
		水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）を更新、西分署・一宮出張所に配備
	4月 1日	消防吏員5名採用、消防長以下174名
	7月14日	千両分団の小型動力ポンプ付積載車（B-3）を更新
	11月15日	牛久保分団の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
	12月22日	東分署の20m級屈折はしご付消防自動車を更新
平成18年	2月 1日	宝飯郡一宮町と合併
		職員2名増員 消防長以下176名
		消防団組織 1団5方面隊16分団7部
		団長以下414人（定員）実員414名
	4月 1日	消防吏員消防長以下174名
		団長以下414人（定員）実員414名
	6月11日	愛知県との共催で、風水害対応の総合防災訓練を豊川市いこいの広場において開催
	8月 8日	平尾分団の小型動力ポンプ付積載車（B-3）を更新
平成19年	2月23日	高規格救急車を更新、消防署・西分署に配備
	3月 5日	指揮隊車（トヨタハイエース）を更新、消防署に配備
	15日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）を更新、東分署に配備
	24日	一宮町豊1番地に一宮出張所を新築（鉄骨造2階建一部平家建延538.72㎡）移転、新たに高規格救急車を配備し業務開始
	4月 1日	行政機構改革により、総務部防災対策課が消防本部へ移管される 消防吏員8名採用、消防長以下180名（うち防災対策課5名） 再任用吏員4名採用（定数外） 団長以下414人（定員）実員414名
	7月 2日	諏訪1丁目1番地（豊川市役所内）へ消防本部（総務課・予防課）を移転、業務開始
	11月29日	査察車（スズキエブリー）を更新、御津出張所に配備

	12月13日	小型動力ポンプ付水槽車（積載水量10,000ℓ、B-3）を更新、西分署に配備
	20日	災害対策車（ユニモグ）を更新、消防署に配備
平成20年	1月15日	宝飯郡音羽町及び御津町と合併 職員2名増員 消防長以下182名（うち防災対策課6名） 消防団組織 1団7方面隊22分団7部 団長以下 594人（定員）実員586名
	2月22日	諏訪分団の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
	26日	財団法人日本消防協会から指令広報車（パジェロ）が寄贈された
	4月1日	消防吏員6名採用、消防長以下183名（うち防災対策課6名） 再任用吏員3名採用（定数外） 女性団員3名採用、機能別団員発足36名採用 団長以下630人（定員）実員622名
	8月18日	当古分団の小型動力ポンプ付積載車（B-3）を更新
	9月29日	消火・通報訓練指導車を更新、予防課に配備
	12月2日	小型動力ポンプ付水槽車（積載水量10,000ℓ、B-3）を更新、消防署に配備
平成21年	2月25日	愛知県共済生活協同組合から広報連絡車（アイシス）が寄贈された
	4月1日	消防吏員8名採用、消防長以下183名（うち防災対策課6名） 再任用吏員6名採用（定数外） 団長以下642人（定員）実員626名うち機能別団員48名
	6月26日	広報車（トヨタノア）を更新、予防課に配備
	9月17日	三蔵子、下郷、萩、長沢分団の小型動力ポンプ付積載車（B-2）更新
	10月23日	高規格救急自動車を更新、東分署に配備
平成22年	2月1日	宝飯郡小坂井町と合併 職員1名増員 消防長以下184名（うち防災対策課7名） 消防団組織 1団8方面隊26分団7部 団長以下799人（定員）実員753名うち機能別団員48名 災害支援車（ニッサンアトラス旧小坂井町車両）を消防署に配備
	4日	御油分団の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
	16日	愛知県共済生活協同組合から広報連絡車（アイシス）が寄贈された
	3月25日	火災原因調査車（トヨタハイエース）を更新、予防課に配備
	4月1日	消防吏員4名採用、消防長以下184名（うち防災対策課7名） 再任用吏員1名採用（定数外） 団長以下 781人（定員）実員763名うち機能別団員58名 女性団員1名採用4名
	8月1日	消防士像「若き志」が前澤 英氏より寄贈され、豊川市長出席のもと、除幕式を開催

	1 1月 24日	一宮第1分団第1部、御津第1分団、御津第3分団の消防ポンプ自動車（CD-I型）を更新
平成23年	2月 9日	救助工作車（II型）を更新、消防署に配備
	1 4日	赤坂分団の小型動力ポンプ付積載車（B-2）更新
	2 1日	小型動力ポンプ付水槽車（積載水量9,000ℓ、B-3）を更新、東分署に配備
	4月 1日	消防吏員4名採用、消防長以下184名（うち防災対策課6名） 再任用吏員1名採用（定数外） 団長以下794人（定員）実員753名うち機能別団員77名 女性団員1名採用5名
	1 0月 7日	桜町分団の小型動力ポンプ付積載車（B-2）を更新
	1 1月 4日	ひまわり農業協同組合から高規格救急自動車が寄贈され、消防署に配備
平成24年	2月 27日	愛知県共済生活協同組合から広報連絡車（サクシード）が寄贈された
	3月 27日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）を更新、御津出張所に配備
	4月 1日	消防吏員3名採用、消防長以下185名（うち防災対策課6名） 再任用吏員2名採用（定数外） 団長以下794人（定員）実員742名うち機能別団員76名
	1 0月 17日	愛知県共済生活協同組合から広報連絡車（サクシード）が寄贈された
平成25年	1月 23日	水槽付消防ポンプ自動車（水I-A型、積載水量1,500ℓ）を更新、小坂井出張所に配備
	2月 26日	小坂井第4分団の小型動力ポンプ付積載車（B-2）を更新
	4月 1日	御津出張所、小坂井出張所を統廃合し御津町下佐脇野先52番4に、南分署を新築（鉄骨造2階建延1,157.95㎡）、業務開始 消防吏員3名採用、消防長以下186名（うち防災対策課6名） 再任用吏員1名採用（定数外） 団長以下754人（定員）実員713名うち支援団員71名 機能別団員を支援団員に名称変更
	9月 24日	小坂井第1分団の小型動力ポンプ付積載車（B-2）を更新
	1 0月 1日	小坂井町大堀2の1（旧小坂井出張所）に小坂井第1分団詰所を移転
	1 0月 22日	高規格救急自動車を更新、西分署、南分署、一宮出張所に配備
	1 2月 12日	査察広報車を更新、東分署に配備
平成26年	3月 31日	南部出張所を廃止
	4月 1日	消防吏員7名採用、消防長以下186名（うち防災対策課6名） 再任用吏員4名採用（定数外） 団長以下754人（定員）実員714名うち支援団員78名 女性団員1名採用5名
	1 2月 5日	I型化学消防ポンプ自動車（A-2、積載水量1,500ℓ、薬液

		300ℓ)を更新、西分署に配備
平成27年	11月7日	小坂井第3分団の小型動力ポンプ付積載車(B-2)を更新
	1月28日	一宮第3分団第1部、御津第2分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
	4月1日	消防吏員5名採用、消防長以下187名(うち防災対策課6名) 再任用吏員3名採用(定数外) 団長以下754人(定員)実員704名うち支援団員79名
平成28年	7月23日	消防本部連絡車(トヨタレジアスエース)更新、総務課に配備
	8月8日	第60回愛知県消防操法大会が、豊川市音羽運動公園で開催された
	2月18日	豊川分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
	3月3日	中条分団、一宮第1分団第2部の小型動力ポンプ付積載車(B-2)を更新
	4月1日	行政機構改革により、防災対策課が企画部へ移管される 消防吏員7名採用(うち女性吏員1名)、消防長以下185名 再任用吏員4名採用(定数外) 団長以下754人(定員)実員700名うち支援団員82名
平成29年	5月18日	査察指導車(スズキエブリー)更新、予防課に配備
	12月8日	高規格救急自動車を更新、東分署に配備
	1月1日	新規に高規格救急自動車を増台、本署へ配備し、6台体制運用開始
	2月23日	一宮第2分団第2部の小型動力ポンプ付積載車(B-2)を更新
	4月1日	消防吏員7名採用(うち女性吏員1名)、消防長以下183名 再任用吏員8名採用(定数外) 団長以下726人(定員)実員703名うち支援団員87名
平成30年	11月29日	はしご付消防自動車(40メートル級)更新、消防署に配備
	11月30日	防火広報車(トヨタレジアスエース)更新、予防課に配備
	2月20日	国府分団の消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新
	4月1日	消防吏員8名採用、消防長以下180名 再任用吏員9名採用(定数外) 団長以下726人(定員)実員674名うち支援団員80名
平成30年	12月7日	高規格救急自動車を更新、消防署に配備
平成31年	12月13日	指揮車を更新、消防署に配備
	2月4日	水槽付消防ポンプ自動車(水I-A型、積載水量1,500ℓ)を更新、 消防署、西分署に配備
	2月26日	三上分団の小型動力ポンプ付積載車を更新
	3月23日	御津第3分団御馬詰所と下佐脇詰所を統廃合し、新たな詰所(鉄骨2階建 84㎡)を新築
	4月1日	行政機構改革により、係制を廃止し、グループ制を導入 消防吏員8名採用(うち女性吏員1名)、消防長以下181名

再任用吏員 9 名採用（定数外）
一宮第 1 分団第 1 部と第 2 分団第 2 部を統廃合し、新第 1 分団詰所（鉄骨
2 階建 8 4 m²）を新築、運用開始
消防団組織 1 団 8 方面隊 2 6 分団 5 部
団長以下 7 2 6 人（定員）実員 6 2 2 名うち支援団員 7 9 名

令和 元 年 1 2 月 3 日 水槽付消防ポンプ自動車（水 I - A 型、積載水量 1, 5 0 0 ㍓）を更新、
消防署、一宮出張所に配備

令和 2 年 2 月 1 日 千両分団の小型動力ポンプ付積載車（B - 2）を更新
2 月 2 2 日 牛久保分団の消防ポンプ自動車（C D - I 型）を更新
4 月 1 日 消防吏員 8 名採用（うち女性吏員 1 名）、消防長以下 1 8 4 名
再任用吏員 9 名採用（定数外）
一宮第 1 分団第 2 部と第 2 分団第 3 部を統廃合し、新第 2 分団詰所（鉄骨
2 階建 9 8 m²）を新築、運用開始
消防団組織 1 団 8 方面隊 2 6 分団 3 部
団長以下 7 2 6 人（定員）実員 6 2 8 名うち支援団員 7 0 名

1 2 月 1 0 日 高規格救急自動車を更新、西分署、南分署、一宮出張所に配備

令和 3 年 2 月 2 0 日 平尾分団の小型動力ポンプ付積載車（B - 2）を更新
4 月 1 日 消防吏員 7 名採用（うち女性吏員 1 名）、消防長以下 1 7 8 名
再任用吏員 1 4 名採用（定数外）
一宮第 2 分団第 1 部と一宮第 3 分団第 1 部及び第 2 部を統廃合し、新第 3
分団詰所（鉄骨 2 階建 9 7 m²）を新築、運用開始
消防団組織 1 団 8 方面隊 2 6 分団
団長以下 7 2 6 人（定員）実員 6 1 8 名うち支援団員 7 0 名

